



特定医療法人社団

鵬友会 ニュースレター

鵬友会ホームページ アドレス
<http://www.hovukai.org/>

発行:2012年2月15日
発行責任者:
特定医療法人社団 鵬友会
事務局長 池島 守

介護保険制度と歩んだ阿久和鳳荘のこの11年

介護老人保健施設 阿久和鳳荘 施設長 末盛 彰一



私が、阿久和鳳荘の施設長に就任して11年になります。介護保険制度は2000年4月に施行されましたので、まさに介護保険制度とともに歩んだこの11年間です。介護老人保健施設（老健）の施設長としてこの11年を総括し、少し未来を語ってみたいと思います。

経済大国日本が鳴り物入りで始めた介護保険制度は、ゴールドプランと称されたように世界が羨むものであったことは間違いないと思います。右肩上がりの経済成長と安心の年金制度に支えられて年をとっても何の不安もない老後と、その頃は誰もが疑いませんでした。介護保険の導入は、鳳荘においては経験豊富な職員が多くとてもスムーズに移行できたように思います。収益性も高くまさに事業としてもバラ色でした。しかしながら、その後は皆さんも御存知のように、予想を超えた少子高齢化による年金制度の破たん、長引く不況による財源不足、首都圏の高齢化現象、平均寿命の上昇など、介護保険制度の土台を揺るがしかねない状況を引き起こしてきたのがこの11年間でした。3年ごとの介護報酬改定は、なんとか介護保険法を永続させるための苦肉の策のように思えます。05年には、在宅介護と施設介護の不公平を是正するために施設での居住費・食費が自己負担になりました。欧州・米国では当たり前であるという説明でしたが、背景には急増する施設介護を抑制し、介護保険の支出を減らす意図がありました。次第に金のかかる施設介護に変貌してきたのです。結果として、介護施設、特に老健は収益悪化・入所者の要介護度上昇による介護職員の負担増からの離職率上昇とダブルパンチとなりました。前事務長が介護職員を求めてハローワークに日参していたのはこの頃です。

06年は高齢者のADL維持改善を目標に予防介護に焦点をあてた改定でした。90歳の後期高齢者にマシンで筋トレしADLを下げたしまったというような笑い話がありました。現在につながる地域包括ケアの考えから、予防でADL低下押さえて施設介護を抑制しようという考えが背景にあった訳です。09年の改定では、経営にあえぐ施設のために介護報酬が3%アップしました。中間施設としての老健の役割を鮮明化するために認知症短期集中リハビリ加算の新設が目玉でした。

厚労省は老健に対して沢山の加算制度を増設し、頑張れば質をあげれば収益は増しますよと言っていますが、問題はそれらの加算がすべて在宅復帰に関連するものなのです。現実には、老健の入所者は一層高齢化し、要介護度は重症化しています。さらに、慢性心不全、慢性呼吸不全、がん患者、認知症などの入所者も増加しており、看護・介護職員ストレスを一層増加させ、薬剤費の増加は経営を圧迫しています。病院で治せない病気が老健のリハビリで改善して在宅復帰できるはずがないのです。

さて、愚痴っぽい話が多かったですが、12年度の改定で老健はどうかわるのでしょうか？我々の試算では、介護報酬は1.2%微増しますが、職員給与補助金がカットされますので、差し引き2%程度の減収となるようです。厳しい環境が次回の改定まで3年は続く覚悟しなければなりません。占床率のさらなるアップ、地道な加算アップの努力を継続する必要があります。さて老健・阿久和鳳荘の未来はどうなのでしょう？05年より厚労省が推進している地域包括ケアは医療と介護の理念を一変させる可能性を秘めています。病院も介護施設も地域包括ケアのシステムが完成する25年まで現状維持で安泰であるということは、まずないでしょう。しかしながら、事業に将来性があるかどうかは、将来において需要が見込まれ、かつ、我々がその要求に対して適切なサービスを提供できるかということだと思っています。急性期病院が隣接し、近隣にケアミックス型の新中川病院、認知症専門の横浜ほうゆう病院、二つのクリニック、訪問看護ステーションを包括する鵬友会の一員である老健・阿久和鳳荘は中間施設として、地域住民の多彩なニーズに対応できる潜在能力を持っています。あとは、政治と経済次第なのかもしれません。介護保険制度は現行の年金制度を基盤にしていますし、地域包括ケアはまさに介護制度の地方分権です。介護の世界もしばらく不透明な時代が続くと思われませんが、地道に職員のスキルアップと施設環境の整備に努力を継続することが、老健・阿久和鳳荘のサバイバルレースに勝ち残る道であると信じています。鵬友会の皆様の引き続いての御支援よろしくお祈りします。

家族会を終えて

平成24年1月11日（水）

介護老人保健施設阿久和鳳荘 事務長 上村 義孝



【末盛 施設長】

◆開催に至る経緯◆

介護老人保健施設 阿久和鳳荘は、明るく家庭的な雰囲気の中で、利用者の尊厳を守り安全に配慮しながら、生活機能の維持・向上を図るための総合的な施設サービスを提供しております。

また、全職種が円滑に機能して初めて安心・信頼されるサービスが提供できるという施設方針のもと、皆様に満足していただける施設を目指し職員一同、日々努力しております。その中で、末盛施設長より「よりよい施設にするためには、ご家族様のご意見・ご要望を聞いていかないと今以上の前進はない。」と発案があり、数年ぶりに家族会を開催することに至りました。

◆和やかな雰囲気の中で開催◆

①末盛施設長による【阿久和鳳荘及び運営法人の概要説明】

阿久和鳳荘は市内4番目に開設した18年目の施設であり、ハード面の老朽化は否めませんが、ベッド、エアコンの総入れ替えを済ませ、利用環境の整備を図っていること、経営的には小規模な施設のため厳しい部分も多いが、職員一丸となって努力をしていること、また運営法人の概要などの説明をさせていただきました。

②各職種による【職務内容及び取組みや職種間連携の説明】

全職種（看護・介護・リハビリ・介護支援専門員・栄養・支援相談員・事務総務）の各代表から仕事内容はもちろん、自分の仕事に対してプライドをもって臨んでいることや現在取組んでいること、また、ご利用者の毎日の状態変化に応じて、看護・介護を含む全職種の対応が変わってくることによる連携や、食事をする一連のプロセスの中にも全ての職種が関わってくることなど、職種間の連携方法を説明させていただきました。

ご意見、ご感想など (一部抜粋)

- ▶ 食の細かい母への食事についての提案、実行、または生活面での提案等、きめ細かに連絡を頂きまして感謝しております。
- ▶ 各ご担当者からご説明をいただくことで改めて皆様のお仕事とお顔が一致できて、とても有意義な時間とさせていただきました。また、このような機会を設けていただきたいです。
- ▶ トイレや腰の痛いときなど、介護さんに声をかけるのができないこともあるので、声をかけをまめにしていきたい。



【会場風景】

◆総評◆

参加された24名の方からは、お褒めの言葉、励ましの言葉を頂くことができました。また、ご指摘もいくつか頂き、改めて常に新鮮な想いで取組まないといけないと、反省させられる面もありました。

介護保険制度や施設の老朽化等々、いかんともしがたい部分もありますが、頭・体・心・組織を使って、私たちが今できるベストを尽くしていくことが、ご利用者様の満足につながると再認識させられた家族会でした。これからも様々な形で、家族会を進めていきたいと思っています。